

古民家は何の木でつくられているか？

い だ ひでゆき
井田 秀行

信州大学教育学部理科教育コース
森林生態学研究室 准教授

f 森LAB@信州大学



<専門>森林生態学。学術博士。学芸員(生物系)

▶ブナの森の生態研究がライフワーク。雪国の古民家に家族で暮らし、里山で伸び放題の木や草を今の時代にあったかたちでうまく活用できないかボーッと考え中。

▶研究室では、里山を持続的に利用してきた伝統的な知識とともに里山で子ども達と全力で遊ぶ力を学生達に身につけさせるべく、がんばらずに活動中。

古民家とは？▶1950年以前に伝統構法で建てられた民家

①内容をざっくり

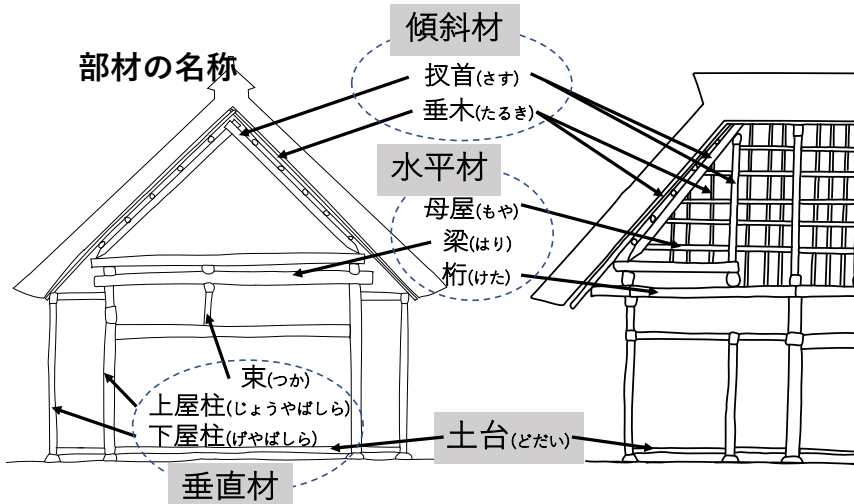
古民家では、裏山の木々が適材適所に使われ、その特徴は地域ごとに様々であったということを科学的に明らかにした。

②話のキモは？

古民家、すなわち里山でのかつての暮らしは、裏山の林や草地の生態と適度に折り合いをつけていた。それを賞賛するだけは身勝手。科学的に評価し、応用しないとったいない。

③メッセージ

まずは「これって何の木？」から。身の回りの木材の生い立ちを意識してみる。



今回多く登場する樹木

広葉樹
榎(ぶな)
檜(なら)
欅(けやき)

針葉樹
杉(すぎ)
赤松(あかまつ)
五葉松(ごようまつ)

【お知らせ】信州生態研究会2018年研究発表会

■H30年12月15日(土) 9:30~17:00 聴講自由(参加費500円)・申込不要・駐車場無料

■於:信州大学教育学部 N101・N201講義室

世界的なライチョウ研究者である中村浩志博士(信州大学名誉教授)の最新の研究報告から研究ビギナーの学生までプロアマ問わず、交流会を兼ねた幅広い内容に関する発表会です。

招待講演は、筑波大学の津田吉晃准教授に「長野県の県木・白樺とは?~ユーラシア大陸の集団遺伝学的研究から~」についてお話し頂きます。

◎問合せ:信州大学教育学部森林生態学研究室 Tel: 026-238-4115 E-mail: morilab.shinshu@gmail.com